

コロナ禍のリモートワーク普及が影響
日本企業のIT事情は遅れている？
クラウド利用率は意外に●割！



はじめに

日常に浸透するクラウドサービス

日常生活ではクラウドサービスがあふれ、その利用が当たり前になっています。それは企業活動でも同じです。

新型コロナウイルスの感染拡大でワークスタイルは激変し、リモートワークが一気に普及しました。業務効率や生産性を高める環境整備をどう進めるのか、各社とも試行錯誤しながらITインフラやリソースのデジタル化、クラウド化を推し進めました。これは世界的な社会変革ともいえる動きでした。果たしてクラウドサービスを取り入れた企業にはどんな影響があったのでしょうか。

そこで、日本企業のクラウドサービスの利用実態とともに、企業視点で考えるクラウドサービスの上手な使い方を解説します。

INDEX

はじめに	1	第3章 ITインフラをクラウド化する4つのポイント	
日常に浸透するクラウドサービス			
第1章 企業のクラウド利用はどれくらい進んでいるのか？		1. ITインフラをクラウド化しない理由とは？	15
1. 約7割の企業がクラウドサービスを利用	4	2. 2-1.ポイント1：クラウド化する目的を明確にする	16
2. SaaS、IaaS、PaaSとは？	5	2-2.ポイント2：トライアルで様々なサービスの使い勝手を試す	17
3. 一番利用しているクラウドサービスはファイル保管・データ共有	6	2-3.ポイント3：オンプレミスも生かしたハイブリッド環境も	18
第2章 ITインフラをクラウド化すべき理由		2-4.ポイント4：外部のリソースを活用する	19
1. クラウドサービスの導入効果は？	8	おわりに	20
2. ITインフラをクラウド化するメリットは？	9	レガシーシステムのクラウド化を事業成長のターニングポイントにする	
2-1. メリット1 高い効率性	10	企業情報	
2-2. メリット2 優れたアクセシビリティ	11		
2-3. メリット3 高いセキュリティ	12		
2-4. メリット4 柔軟な拡張性	13		